

日本文理大学 工学部 経営工学科

日本文理大学は、昭和42年に大分工業大学として機械工学、電気工学、土木工学、建築学の各学科が設立され、単科工業大学としてスタートしました。経営工学科はその翌年の昭和43年に九州における唯一の学科として誕生し、18年目の歴史を迎えています。また、昭和57年には商経学部が開設され、日本文理大学と学校名を改称し、2学部の総合大学へと発展しつつあります。学生数は現在、約3000名です。

さて、経営工学科では当初、どちらかといえば、経営学部の色彩が強い学科目構成でしたが、ここ10年来、カリキュラムは着々と経営工学分野の内容に充実されてきました。

本学の経営工学科は、経営の近代化のための新しい管理技術、情報処理技術を総合的、体系的に考究することを目的としています。特に、システム工学、インダストリアル・エンジニアリング、オペレーションズ・リサーチなどの手法と、コンピュータによる情報処理技術を駆使できる経営工学技術者を育成しています。

このような能力をそなえた人材を育成するために、学科目を経営管理工学、情報システム工学、生産工学、環境管理工学、人間工学の5群に分類し、各群ともに実験・実習・演習に重点を置いています。学生はその1つを専攻し、3年次に少人数のゼミナール、4年次の卒業研究指導など徹底した教育を行なっています。

当学科の将来構想としては、コンピュータ関係の教育

表1 研究室一覧

研究室名(群別)	指導教員
経営管理工学群	岡田豊章教授
〃	小松貞美助教授
情報システム工学群	村田達夫教授
生産工学群	甲斐章人教授 (経営学博士, 技術士)
環境管理工学群	加賀谷一良教授 (文学博士)
人間工学群	吉田正敏教授

の比重をさらに高めることにあります。また、これに加えて統計工学群を設けて一層の充実を図ろうと考えています。ここで表1に研究室一覧を紹介しておきます。

また、表2にカリキュラムの内容を示します。以上のように専攻群に分かれますが、卒業研究に必要な学科目については自由に選択履修することができるようにしてあります。

さらに、当学科では学生の自主的な研究活動として「生産工学研究会」、「コンピュータ研究会」があります。具体的な活動内容として、中小企業診断士、情報処理技術者の国家試験の受験学習、各工場やソフトウェアハウスの見学の実施、大学祭における研究成果の発表参加など、活発な成果をあげています。また幸い、大分臨海工業地帯、大分テクノポリスがあるので、産学共同研究の一端として企業と提携し共同研究を行なっています。

一方、就職状況は歴史の浅い学科であるにもかかわらず

表2 カリキュラムの内容

経営工学基礎・ 関連科目	経営工学実験Ⅱ	●経営管理工学群	情報工学Ⅰ	生産工学Ⅰ	環境管理論Ⅱ
経営工学総論	数理統計学	工業会計	情報工学Ⅱ	生産工学Ⅱ	環境管理演習
経営管理論	経済性工学	工業経営学	システム工学Ⅰ	生産工学Ⅲ	地域経済論
経営数学Ⅰ	機械製図	市場調査論	システム工学Ⅱ	品質管理	●人間工学群
経営数学Ⅱ	機械工学概論	労務管理	ORⅠ	実験計画法	組織行動科学Ⅰ
コンピュータ概論	電気工学概論	原価計算	ORⅡ	生産管理演習	組織行動科学Ⅱ
電子計算機演習Ⅰ	経営工学特論	原価管理	数値計算法	生産管理実習	人間工学
電子計算機演習Ⅱ	外国書講読	経営分析	●生産工学群	●環境管理工学群	人間工学実験
経営工学実験Ⅰ	ゼミナール	●情報・システム 工学群	インダストリアル・ エンジニアリング	環境管理概論	産業心理学
	卒業研究			環境管理論Ⅰ	産業心理学演習

ず、卒業生はコンピュータ関係、I E、Q C、生産管理などの技術者、セールスエンジニアなどとして、全国各地で活躍しています。

今後とも、カリキュラムの充実と教員スタッフの強化を図り、ユニークな学科づくりをめざしてまいります。

(甲斐 章人)

広島工業大学 経営工学科

広島工業大学は、広島市の西端の日本三景の1つである宮島が展望できるところに本拠を構えている。昭和41年に開設された経営工学科は、昭和61年10月末現在465名の学部学生と11名の専任教員とから構成されている。本学は目下大学院設置を具体的実現するというところで検討中であるが、今まで学部学生のみが対象であったということで、実践教育に多大の努力を傾注してきた経緯があり、現在のカリキュラムおよび専任教員の構成もそれを反映したような結果となっている。

現在のカリキュラムは昭和61年度から実施されているが、授業科目の構成は表1のとおりである。

この分類は多少便宜的であり、コース制を意味するものでもなく、学生指導において若干使用するのみである。このカリキュラムの特徴は、まず実験・演習の多いこと、専門教育における必須科目は卒業研究を含め42単位(選択79単位、自由10単位)とし、基礎的なものに限って、多様な学生の能力と関心に対応できるようにしたことであろう。しかし、当経営工学科での教育の特徴は、科目そのものよりもその内容および指導方法にある。基本概念と基礎の重視、問題の発見と解決のためのアプローチ、企業の実態などは、教育の上で多くの教員が注力するところで、授業の教材で工夫するのみならず、企業実習、会社見学、論議(合宿研究会)、実態調査

などが、卒業研究を通じて各教員の指導のもとで盛んに行なわれている。その他今回のカリキュラム改正の特徴として、若干ながらシステム・情報関連授業科目の増加とソフト化傾向とが指摘できよう。

また、本学は講座制ではなく担当授業科目制とでもいべき状況にあって、各教員の教育・研究の自由が尊重されるようになってきているが、それはある意味で個人の負担が大きくなる傾向を伴っているともいえよう。特に学部学生のみを対象としての多人数教育において、教育(場合によっては大学運営に関する業務も含め)と研究の両立は多くの教員の課題ないし悩みでもある。それに加えて、経営工学関連の領域では“たちの悪い問題”ないし“良構造でない問題”が多く、研究の内容と現実世界との乖離を起ささないようにすることも課題であろう。このような状況で本学の教員は必ずしもOR学会で直接活躍していないが、各教員は皆、問題解決の科学的方法であるORとはなんらかの関連で教育研究において取り組んでいるのが現実である。蛇足ながら私も浅学非才を顧みず、目下自律の人間を含んだシステムのよりよい理解と設計および実践の基礎となる理論の構築と方法論の研究を志す1人である。

なお、現在の専任教員の教育・研究における指導の内容は表2に示すようになってきている。(久保田洋志)

表1 授業科目

()の数値は単位数

工学基礎	応用数学(6)、物理学実験(1)、基礎電気回路(2)、計算機演習(2)
共 通	経営工学概論(4)、経営工学基礎実験(4)、経営工学総合演習(2)
生産工学	生産工学(8)、人間工学(4)、生産工学実験(1)、計測工学(2)、I E(8)、工業標準化(2)、工程管理(4)、工場管理(3)、I E生産管理演習(2)
システム・情報	システム工学(2)、システムズアプローチ(2)、システム制御理論(4)、システム制御演習(2)、計算機工学(2)、情報処理(8)、ソフトウェア工学(2)、会計情報論(4)、情報処理演習(2)
経営管理	原価計算(2)、品質管理(6)、品質管理演習(1)、労務管理(6)、販売管理(2)、購買管理(2)
経営科学	数理統計学(4)、OR(4)、OR演習(1)、経済性工学(2)
関 連	文献ゼミナール(1)、特別講義(2)、卒業研究(5)
他 学 科	電子工学概論(2)、デジタル回路(2)、通信工学(2)、機構学(2)、工作機械(2)